

## I-2 九州大学医学部所蔵キュンストレーキについて

## I-2 九州大学医学部所蔵キュンストレーキについて

月澤美代子・酒井<sup>1)</sup> シヅ  
 ヴォルフガング<sup>2)</sup> ミヒエル

今年、創立百周年を迎えた九州大学医学部には、医学・医療関係の貴重な文献資料・器物資料が多数、保存されている。こうした資料は、平成九年、順天堂大学酒井シヅ、九州大学ヴォルフガング・ミヒエルの調査によって改めて確認され記録・整理が行われた。この時、キュンストレーキが一体あることが確認された。

キュンストレーキとは、幕末から明治にかけてフランスから我が国に輸入された紙塑人体模型のことをいう。精巧に作られており、部分部分を徐々に取り外し、人体の表層および内部の解剖学的な情報を得ることができ。福井市郷土歴史博物館所蔵の二体(男性体一体、女性体一体)、金沢大学の一体(男性体)、長崎大学の一体(男

性体)、さらに、制作指導者であるフランスの解剖学者オズー(Louis Thomas Jérôme Anzoux, 一七九七-一八八〇)があるいは、キュンストレーキとともに使用された解剖学教科書については、それぞれ、竹内真一、酒井恒、青木義勇、石田・ムルダー・ポイケルスの諸氏の報告が行われている。

しかし、この九州大学医学部所蔵の一体については、前記の調査において存在が確認されるまで紹介されることはなかった。

この九州大学医学部所蔵キュンストレーキは、福井、金沢のものと基本的に同型の男性全身体(Moçale d'homme COMPLET)とみなされるが、頭部、左腕部分は欠失しており、左脚も大腿部以下を失っている。さらに、胸部・腹部の内臓の納まっているべき部分は空になつており、脊髄部分が露出している。こうした胸部・腹部の内臓部分については、所在が不明のままとなつてた。

一方、平成十三年度の総括班の活動を経て、文部科学省特定領域研究(A)「我が国科学技術黎明期資料の体系

化に関する調査・研究」(略称「江戸のモノづくり」)が、いよいよ平成十四年度から本格的に開始された。これに関連して、演者たちは、福井市郷土歴史博物館所蔵の二体のキュンストレーキを解組・調査する機会を得ることができた。また、九州大学医学部所蔵のキュンストレーキ、長崎大学医学部所蔵のキュンストレーキに関して調査・研究を進めつつある。

今回、月澤は、福井市立郷土歴史博物館所蔵のキュンストレーキと九州大学医学部所蔵の器物資料のデータを統合的に分析し、次のことを明らかにした。すなわち、九州大学医学部でキュンストレーキとは無関係の標本として別個に保存されていた解剖学模型標本の中に、横隔膜、大腸・小腸部分、心臓、肝臓・腎臓、肺等の、キュンストレーキの内臓部分が含まれていた。この他、福井の男性体で欠失している、いくつかの臓器が含まれている可能性がある。こうしたことを紹介し、さらには、医史学研究における医学・医療関係資料のデータベースの必要性・有用性・可能性についても触れてみたい。

<sup>1)</sup>(順天堂大学医学部医史学研究室)  
<sup>2)</sup>(九州大学大学院言語文化研究院比較言語学文化講座)